

令和 8 年 7 月 2 4 日
北海道開発局

しりべしとしべつがわ

後志利別川ほか 3 河川 水質が最も良好な河川に

～令和 7 年 北海道内一級河川の水質現況 公表～

北海道内一級河川における令和 7 年水質調査結果について、別紙のとおり取りまとめましたので、お知らせします。

水質（BOD 値）が最も良好な河川※は、^{しりべしとしべつがわ}後志利別川（7 年連続）、^{さつないがわ}札内川（3 年連続）、^{しょこつがわ}渚滑川（2 年連続）、^{さるがわ}沙流川（3 年ぶり）でした。

また、その他の河川においても良好な状態を維持しており、引き続き、河川環境の保全に取り組んでまいります。

なお、全国の一級河川の水質が最も良好な河川は 13 河川で、そのうちの 4 河川が北海道です。

※各調査地点の BOD 年平均値による平均が 0.5mg/L かつ、各調査地点の BOD 75% 値による平均が 0.5mg/L である河川

北海道開発局では、毎年、北海道内の一級河川 13 水系における水質調査を行っております。

この度、令和 7 年の BOD 等の水質調査結果、住民との協働による水質調査の実施状況、ダイオキシン類実態調査結果等を取りまとめました。また、河川の水質現況や地域の取組等をご理解いただけるよう、パンフレットを作成しましたので、ご覧ください。

〇一級河川の水質現況パンフレット

URL : https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/kn/kawa_kan/ud49g700000011aa.html

また、全国一級河川の水質現況については、国土交通省のホームページをご覧ください。

URL : https://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyousuisitu/r7_suisitu.html

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

建設部 河川管理課 低潮線保全官 山口 昌志（内線 5323）

低潮線保全係長 村田 紗織（内線 5970）

北海道開発局ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/>



令和7年 北海道一級河川の水質調査結果

1. 水質調査結果

北海道一級河川の水質（BOD平均値）が最も良好な河川は、後志利別川、札内川、渚滑川及び沙流川で、令和7年全国上位13河川のうちのひとつとなっています。

令和7年北海道一級河川の河川別水質調査結果は以下のとおりです。人の手が入っていない河川並の水質とされるBOD平均値1.0mg/L未満の河川は、道内20河川中17河川あり、これらの河川はいずれも清浄な河川といえます。

令和7年 北海道20河川の地点別年平均値 ※値の小さい順に掲載

水系名	河川名	地点数	BOD平均値 (mg/L)	BOD75%値 (mg/L)	各地点のBOD年平均値 ()内75%値 (mg/L)
後志利別川	後志利別川	3	0.5	0.5	住吉0.5(0.5) 今金橋0.5(<0.5) 兜野橋0.5(0.5)
十勝川	札内川	2	0.5	0.5	南帯橋<0.5(<0.5) 札内橋0.5(<0.5)
渚滑川	渚滑川	3	0.5	0.5	新記念橋0.5(<0.5) ウツツ橋0.5(<0.5) 渚滑橋0.5(<0.5)
沙流川	沙流川	3	0.5	0.5	長知内橋0.5(0.5) 平取0.5(0.5) 沙流川橋0.6(0.5)
尻別川	尻別川	2	0.6	0.5	名駒0.5(0.5) 初田橋0.6(<0.5)
湧別川	湧別川	2	0.6	0.6	遠軽橋0.6(<0.5) 中湧別橋0.6(0.7)
天塩川	天塩川	6	0.6	0.6	円山0.5(<0.5) 中川0.6(0.5) 美深橋0.6(0.7) 名寄大橋0.7(0.7) 中士別橋0.6(0.5) 朝日橋0.5(<0.5)
鶴川	鶴川	2	0.7	0.5	穂別橋0.6(0.5) 鶴川橋0.7(0.5)
石狩川	雨竜川	2	0.7	0.6	竜水橋0.6(0.6) 西橋0.7(0.6)
石狩川	幾春別川	2	0.7	0.8	清松橋0.6(0.7) 新川橋0.7(0.9)
石狩川	空知川	3	0.7	0.8	下山山橋0.6(0.8) 泰山橋0.7(0.8) 空知大橋0.7(0.9)
釧路川	釧路川	4	0.7	0.8	新川橋0.8(1.0) 愛国浄水場取水口0.9(1.0) 瀬文平橋0.5(<0.5) 摩周大橋<0.5(<0.5)
石狩川	豊平川	3	0.8	0.8	幌平橋<0.5(<0.5) 豊水大橋0.5(<0.5) 中沼1.3(1.5)
十勝川	十勝川	5	0.8	0.9	共栄橋0.5(<0.5) 佐幌川合流前0.5(<0.5) 十勝大橋1.3(1.4) 千代田堰堤1.1(1.1) 茂岩橋0.8(0.9)
留萌川	留萌川	3	0.8	1.0	橋橋0.6(0.6) 16線橋0.8(1.0) 留萌橋1.1(1.5)
石狩川	夕張川	2	0.9	1.0	馬追橋0.8(0.9) 江別大橋0.9(1.1)
石狩川	石狩川	7	0.9	1.0	永山橋0.5(<0.5) 伊納大橋1.3(1.3) 納内橋1.4(1.7) 砂川大橋0.9(1.2) 奈井江大橋0.8(0.8) 石狩大橋0.8(1.0) 石狩河口橋0.9(0.8)
常呂川	常呂川	4	1.1	1.4	金比羅橋0.7(0.9) 若松橋1.0(1.1) 忠志橋1.5(1.9) 上川沿1.3(1.6)
石狩川	千歳川	2	1.2	1.3	日の出橋0.5(0.5) 新江別橋1.9(2.1)
網走川	網走川	3	1.2	1.3	大正橋0.6(0.6) 治水橋1.0(1.1) 網走橋1.9(2.2)

注¹ BOD(生物化学的酸素要求量)とは、溶存酸素のもとで水中の有機物を栄養源として好気性微生物が増殖・呼吸するときに消費される酸素量で、20℃、5日間で消費される溶存酸素量(mg/L)を標準とする。
BODが大きければ水中の汚れ(有機物汚染)が大きいことを示すため、一般的に水質汚濁を示す代表的な指標とされており、水質関係の各種法令で規制項目として採用されている。

(参考) 環境省 HP <https://www.env.go.jp/recycle/jokaso/himitsu/onepoint/07.html>

注² 75%値とは月1回の測定として例えると、水質の良いものから1年分12ヶ月の測定値を並べたとき、水質の良い方から9番目が75%値となる。

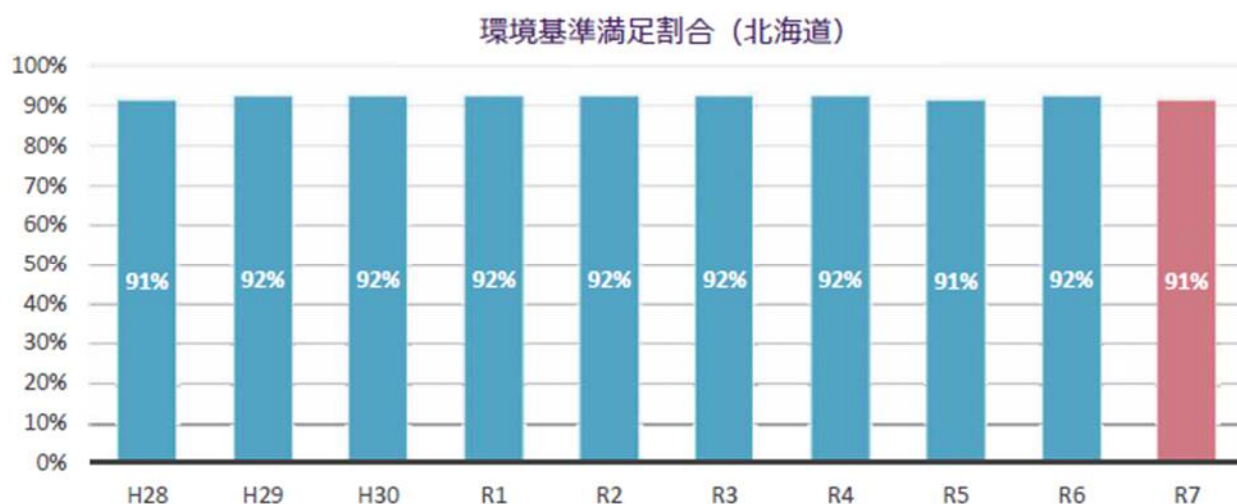
注³ 対象としている河川は以下に示すとおり。

- ・ 本川の直轄管理区間で観測地点が2 地点以上ある河川
- ・ 直轄管理区間延長が1 0 km 以上の支川で観測地点が2 地点以上ある河川
- ・ その他経年的に公表が行われている河川

- ・ 生活環境の保全に関する環境基準の満足状況

BOD値（湖の場合はCOD値）が環境基準値を満足した地点の割合は91%でした。

北海道一級河川（湖沼を含む。）において、生活環境の保全に関する環境基準項目のうち、BOD（湖の場合はCOD）が環境基準値を満足している地点は、93地点中85地点であり、その割合は91%となっています。

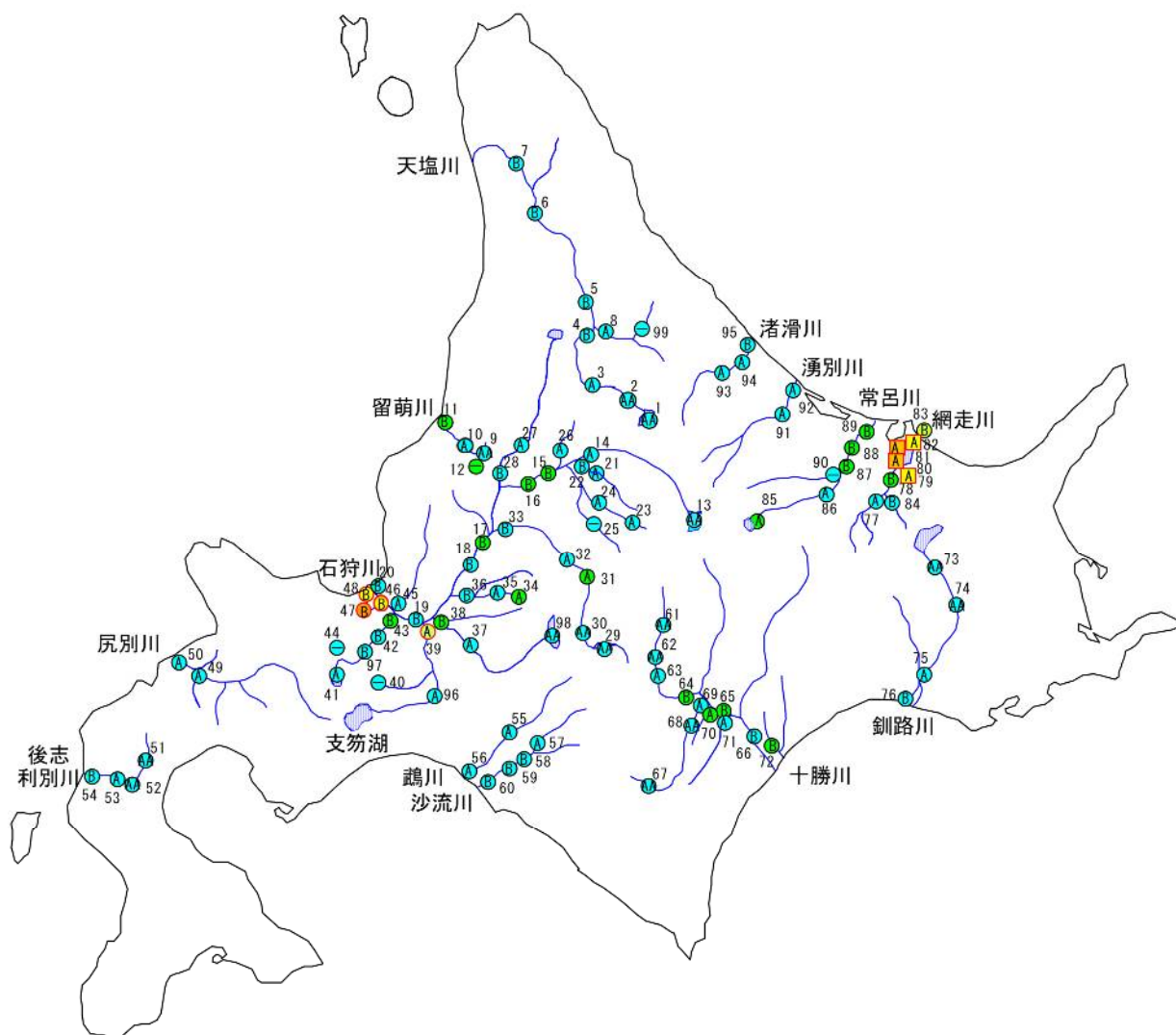


注¹ 類型未指定地点を除く。

注² COD（化学的酸素要求量）とは、水中の有機物を過マンガン酸カリウム(KMnO₄)で化学的に酸化するとき消費される酸化剤の量を、対応する酸素量で表したものである。湖沼及び海域の水質汚濁の一般的な指標として採用されている。

・ 類型指定と環境基準の満足状況

北海道一級河川13水系の水質調査地点について、各調査地点の環境基準の類型指定状況及びBOD・COD75%値の水質状況を下図に整理しました。
※地点ごとの詳細は、別表に掲載。



色	ランク (BOD75%値)	ランク (COD75%値)
青	1. 0mg/L以下	1. 0mg/L以下
緑	1. 1～2.0	1. 1～3.0
黄緑	2. 1～3.0	3. 1～5.0
黄	3. 1～5.0	5. 1～8.0
赤	5. 1～8.0	8. 1以上

類型	河川 (BOD)	湖沼 (COD)
AA	1mg/L以下	1mg/L以下
A	2mg/L以下	3mg/L以下
B	3mg/L以下	5mg/L以下
C	5mg/L以下	8mg/L以下
D	8mg/L以下	
E	10mg/L以下	
-	類型未指定	

1. ○内の色はBOD75%値のランクを指す。
2. □内の色はCOD75%値のランクを指す。
3. ○及び□内の記号は、環境基準の類型である。
4. ○及び□は環境基準を満足していない地点である。
5. 数字は別表に示す調査地点である。

2. 人の健康の保護に関する環境基準（健康項目）

健康項目の水質調査結果は以下のとおりです。

健康項目の水質調査結果

項 目 名	調査地点数	調査検体数	超過地点数	基 準 値
カドミウム	74	158	0	0.003mg/L以下
全シアン	74	159	0	検出されないこと。
鉛	74	171	0	0.01mg/L以下
六価クロム	74	159	0	0.02mg/L以下
砒素	75	170	1	0.01mg/L以下
総水銀	75	162	0	0.005 mg/L以下
アルキル水銀	13	15	0	検出されないこと。
P C B	52	53	0	検出されないこと。
ジクロロメタン	59	61	0	0.02 mg/L以下
四塩化炭素	58	60	0	0.002 mg/L以下
1, 2-ジクロロエタン	58	60	0	0.004 mg/L以下
1, 1-ジクロロエチレン	58	60	0	0.1 mg/L以下
シス-1, 2-ジクロロエチレン	58	60	0	0.04 mg/L以下
1, 1, 1-トリクロロエタン	58	60	0	1 mg/L以下
1, 1, 2-トリクロロエタン	58	60	0	0.006 mg/L以下
トリクロロエチレン	58	60	0	0.01 mg/L以下
テトラクロロエチレン	58	60	0	0.01 mg/L以下
1, 3-ジクロロプロペン	59	61	0	0.002 mg/L以下
チウラム	74	77	0	0.006 mg/L以下
シマジン	74	77	0	0.003 mg/L以下
チオベンカルブ	74	77	0	0.02 mg/L以下
ベンゼン	65	67	0	0.01 mg/L以下
セレン	75	78	0	0.01 mg/L以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	74	413	0	10 mg/L以下
ふっ素	71	97	0	0.8 mg/L以下
ほう素	70	116	0	1 mg/L以下
1, 4-ジオキサン	76	126	0	0.05 mg/L以下
合 計	1746	2777	0	

3. 住民との協働による水質調査の実施状況

河川と湖をあわせて47地点で調査を行い、86団体3,079名の方にご参加いただきました。
水生生物による簡易水質調査の結果は、89%（42地点／47地点）が「きれいな水」と評価されました。

道内一級河川の水質調査は、環境基準による調査だけでなく、多様な視点で評価するため、平成17年から、調査の一部を住民と河川管理者との協働により実施しています。



水生生物による簡易水質調査の結果

		地点数	割合
I類	きれいな水	42 地点	89%
II類	ややきれいな水	4 地点	9%
III類	きたない水	1 地点	2%
IV類	とてもきたない水	0 地点	0%

※うち8地点は、河川管理者による実施

4. ダイオキシン類

ダイオキシン類調査において、全ての地点で環境基準値を満足しました。

国土交通省では、「ダイオキシン類対策特別措置法」で定義されているダイオキシン類について、平成１１年度から全国一級水系で継続的に調査を実施してします。

北海道一級河川直轄管理区間における令和７年度の実態調査結果については、１３水系で水質１３地点、底質２２地点の調査を行い、水質・底質ともに、環境基準（水質：１pg-TEQ/L、底質：１５０pg-TEQ/g）を満足しました。なお、平成１１年度以降、全地点で環境基準を満足しています。

